

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年10月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1170202400
法人名	株式会社矢嶋商会
事業所名	グループホームあすか東川口
所在地	333-0811 川口市戸塚1-13-15 (電話) 048-290-5013
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年10月3日

【情報提供票より】(平成19年8月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤13人, 非常勤1人, 常勤換算6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての全階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	74,000円	その他の経費(月額)	32,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり1,300円				

(4) 利用者の概要(8月22日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	9名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	77歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川口誠和病院、南波歯科病院、入倉クリニック(訪問診療)
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは4階建てで2ユニットになっている。1・4階は事務所と共同空間であり、2・3階は利用者の居室となっている。各部屋には内錠がついており、利用者は鍵をかけて安心して休める。職員は各部屋共通の鍵を持っており、静かに見守ることができている。利用者は女性が多く、自分達の趣味を生かした作品を展示し、お互いを認めあい喜びを分かち合っている。また、調理など利用者の生活歴を尊重した支援をしており、理念にそった生活が営まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で、「刃物や洗剤等の危険物は鍵のかかる場所に保管する。」という改善課題があったが、現在は鍵のかかる安全な場所に保管し、改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の目的を全職員に詳しく説明している。日々の実践を振り返り、再確認しながら質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は家族、包括支援センター、施設の代表者等が集まり第1回の会議を行った。自己紹介から始まり現状説明を行った。初めての会議のため具体的な話し合いはこれからであるが、まずスタートラインに立ったという状況である。次回からはより多くの関係者に出席いただき内容の充実を図っていきたいという前向きな気持を持っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>サービスに関する利用者及び家族からの苦情、要望、相談等の受付窓口があり対応している。受け付けた内容は運営に生かしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の人達とは挨拶をする程度で、地域の行事や祭り等には積極的には参加していない。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしくを大切にして、地域の中で自立した生活が続けられるような支援を中心にした、6項目の理念が掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や実践場面において、職員は理念にそった支援ができるよう、職員間で意思統一を図り日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人とは挨拶と立ち話くらいしか交流を持っていないので、地域活動への参加など、地域との交流を深めていく事が現在の課題となっている。		町内の行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をされることを望む。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回指摘を受けた危険物の管理については、鍵をかけた安全に保管している。今回の評価も、管理者、職員共に話し合いながら進めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、包括支援センター、施設代表が参加しての運営推進会議を実施し、自己紹介及びグループホームの現状等の説明を行った。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当の介護保険課または福祉課等に必要な相談とグループホームの情報を伝達している。その結果として指導を受け、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書を家族に送付する際に、1ヶ月間の利用者の様子や事業所の様子を知らせしている。面会時にも状況説明をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスに関する利用者及び家族からの苦情、要望、相談等の受付窓口があり対応している。それらの内容は運営に生かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット担当制により、複数人配置することで一人の職員が移動しても別の馴染みの職員がいつもいるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症高齢者グループホーム協議会主催の研修や東京都が実施している公開講座に、職員は順番に参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣グループホームと交流を持ち、ホームの行事に招待したり、職員の交換研修を行うなどして、ネットワークづくりやスキルアップを目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居直後は家族から「ホームに早く慣れるよう声を掛けてください。」ということをよく頼まれるが、利用者一人ひとりのペースを重視し、ゆっくりとホームに慣れるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者が人生の先輩であることを認識し、食事作りなどを通じて学びや支えあいの関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「本人が今の生活に満足しているか」について、会話を始め様々な方法により、利用者の思いや意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者がその人らしく、ゆったり、安心した生活を送るために、利用者家族、職員、その他関りのある人々と情報交換を行い、介護計画を作成している。また、状況が変化した場合には、そのつど見直しを行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の現状に即した計画を作成し、定期的な見直しと変化が生じた場合の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に24時間柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所協力医による月2回の往診を利用できるしくみがある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階でかかりつけ医、家族、ホームで話し合いを行い、今後のケアの方向性を決定し対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の「慣れ」による気のゆるみから、声かけなど失礼のないように会議等で定期的な見直しをしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が全員一緒に行動をすることは食事以外にはなく、ホームでは個々のペースや生活リズムに合わせ外出や日課を日々考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性の利用者が多く、主婦としての経験を活かし、食材の準備から調理、盛り付け、後片付けに至るまで職員と共に行い、笑顔でおいしそうにテーブルを囲んでいた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じ、毎日いつでも入浴ができるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1週間に1回は職員が利用者一人ひとりに個別支援を行い、利用者が自分のペースでゆっくりと過ごせるような対応ができるように心がけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が外出を希望される場合は、散歩や買い物等、その都度外出支援をしている。外出を拒否される方に対しては、外食や歌舞伎観覧等、利用者の興味を引くイベントを定期的に行い、外の空気を吸う機会を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは車の往来が激しい道路に面しており、利用者の安全を確保するため、やむを得ず玄関に施錠している。しかし、玄関に施錠することで利用者に圧迫感を与えないよう、ベランダの窓やユニット間のドアなど玄関以外は開放するとともに、利用者から外出の希望があれば、その都度玄関を開放し、外出支援をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策として、運営推進会議において、自治会長より、災害時の要援護者状況がわかる情報の提供を依頼されるなど地域の要望を受ける関係は築けているが、災害時に地域の人々の協力を得られる体制はできていない。		非常時には特に地域住民の協力が必要であるので、日頃からよい関係を築くことが必要である。地域住民の人々のよりよい関係作りに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりが、バランスよく食事がとれるように献立表をつくっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感があるものを考え、花などの植物は絶やすことのないように心がけている。なお玄関にある生け花は利用者が自分の仕事として、毎日活け直している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火の元になるもの以外は、持込みが自由である。居室の窓も開放してありベランダに出られる。居室には内錠があり、利用者が寝際には安心して休めるようになっている。なお緊急時には、職員が外から開けられるようになっている。		